

業務概要

目的

南三陸町では災害公営住宅の入居が2014年8月から始まり2017年3月に終了予定であるが、従来から地域のコミュニティが重要な役割を果たしてきたことを踏まえて、災害公営住宅においても、コミュニティに配慮した取組を行うこととした。なおこの取組は全ての災害公営住宅の入居が終了する2017年度まで実施予定である。

概要

2013年度は災害公営住宅を含む地域のコミュニティの核となる集会所の間取りと広場について、入居希望の方々と意見交換を行い、地域の方々が一堂に会せる広い集会室(2室に間仕切ることが可能)、炊出しのできる広い厨房(集会室と広場に面する位置)、室内と広場をつなぎ気軽に“お茶っこ”のできる広い縁側(テラス)などの基本構成を定めた。

2014年度以降は、入居希望の方々が入居前から顔見知りになれるように、団地ごとに交流できる場として運営し、建設の進捗状況や入居手続きの説明を交えた会とした。また入居後1か月程度後にも、新たな集会所で「くらしの懇談会」を開催し、住宅の住み心地や不具合等伺うと共に、新たなコミュニティの核となる集会所に慣れて頂く機会を設けている。

なお、入居後のコミュニティ活動の継続的な支援のために、くらしの懇談会は当初より地元のまちづくり団体の協力を得て実施している。

《平成25年度》

災害公営住宅
安心したくらしに向けた
“くらしの懇談会”

私たちのコミュニティを育てるために
みんなでこれからのくらしを考えよう

平成25年度
集会所の
使い方

平成26(2014)年4月
南三陸町

“くらしの懇談会”の開催

平成26年度

その4 “くらしの懇談会”第2弾
これから一緒に住むみんなと
“顔合わせ”して、
入居の準備をしていきます。
団地に入居する人や
地域のひとと一緒に
話し合いますよ！
10~11
ページ

平成25年度

その1 みんなで考えました
（“こんな集会所にしたい”と
みんなで考えました。）
4~5ページ

その2 希望を役場に伝えました
（“こんな”使い方”や”作り方”の
希望を役場に伝えました。）
6~7ページ

その3 設計に反映されました
（“くらしの懇談会”の話し合いで出た提案が
設計に反映されました。）
8~9ページ

集会所の“つくり方”を考えました
集会所の“使い方”を考えました
みんなの意見を伝えました
集会所の間取りを確認しました
まちづくり協議会の方の意見も聞きました
みんなの意見を話し合った集会所
を確認しました

《平成26年度》

復興住宅

安心したくらしに向けた
“くらしの懇談会”

平成26年度

新しい暮らしがスタートしました！

植樹祭
みんなで
気持ちの
晴らし

炊き出し
集会所の台所を使って炊き出し

植樹祭
みんなで
気持ちの
晴らし

復興住宅の
見学会
既に入居されている
住戸を見学

平成27(2015)年3月
南三陸町

“くらしの懇談会”とは

コミュニティ形成に向けて
町では、これまでの地域のつながりをあきらめず、今後完成する復興住宅においてもコミュニティの形成に貢献していくことが大切だと考えています。
そのため、復興住宅に入居予定の方、地域の形成のために、これからくらしについて話し合い、交流できる “くらしの懇談会” を開催しています。

平成26年度の取組み
～入居に向けた準備を話し合う場～
同じ復興住宅に入居する方が集まって、入居に向けた様々な準備や交流の場として “くらしの懇談会” を開催しました。

平成27年度の取組み
伊原地区、戸倉地区、志津川3地区の大規模団地で開催していきます。

グループでの話し合いや顔合わせ
復興住宅には、高層の一人暮らしや夫婦で住む方も多くなります。
入居前の顔合わせで知り合えば、準備も楽しくなり、入居後の生活も安心です！
知り合いになれば、お互いに話が聞きやすくなり、色々な決めの話し合いができます。

この懇談会には、この団地やこの団地ごとの特徴や、自分たちの希望を伝えていくことができます。

復興住宅のモデルを確認
復興住宅がある地域の様子や、配置を確認することができました。
また、実際に入居する住戸の模型を確認することで、平面図だけではわからない部分や、自分たちの希望を伝えていくことができます。

復興住宅の見学会
検討地区に入居予定の方たちは、必ず復興住宅を見学しました。
既に入居されている方から話を聞いたり、実際に生活している空間を見学することで、「素晴らしい」「安心できる」などの声がたくさん聞かれました。
来年度（平成27年度）のくらしの懇談会でも復興住宅の見学会を実施しています。

復興住宅の外観を確認しました